

## 山口市芸術家育成支援事業

# 第11回やまぐち新進アーティスト大賞 ノミネート作品展

山口市には文化を大切にする気風があり、創造的な芸術活動が身近な暮らしや、まちのなかに息づいています。

山口市芸術家育成支援事業は、将来一層の活躍が期待される本市のアーティストに賞を贈ることで、創作活動を奨励し、また、発表機会の提供を行うことにより、アーティストの育成を図るとともに、地元のアーティストを地域や住民が支える仕組みづくりを目指すものです。

このたび、やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会により最終選考にノミネートされたアーティストを、その作品とともに紹介いたします。

応募アーティスト数：10名

最終選考ノミネートアーティスト：7名

うえだ こうきち  
上田 幸吉

かたやま りょうこ  
片山 涼子

ささき のりこ  
佐々木 範子

たに やすひろ  
谷 康弘

つちや ひろこ  
土谷 寛子

はらだ かずあき  
原田 和明

よしだ あかり  
吉田 朱里

(50音順・敬称略)

### 第11回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員

会田大也（山口情報芸術センター学芸普及課長） 石崎泰之（山口県立萩美術館・浦上記念館副館長）  
斎藤郁夫（山口県立美術館学芸参与） 平川和明（山口大学教育学部講師）  
水谷由美子（山口県立大学国際文化学部部長） 大和保男（陶芸家）

(50音順・敬称略)

|                                                                                   |                  |                                               |         |     |
|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------|-----------------------------------------------|---------|-----|
|  | ふりがな<br>アーティスト名  | う え だ    こう き ち<br>上 田   幸 吉                  |         |     |
|                                                                                   | 年 齢              | 58                                            | 創作活動の拠点 | 小 郡 |
|                                                                                   | 芸術家として<br>目指す方向性 | ジャンルにとらわれずオブジェ 彫刻 絵画等広く制作し、チャンスがあれば発表活動を行いたい。 |         |     |

風神雷神

今までたくさんの人々が【風神雷神】のモチーフを制作してきました。切り絵作家としてその難しい画題をどのように伝えられるかを考え古典を現代版にアレンジしました。



骸咲華

死に対しての‘‘恐れ’’,‘‘儚さ’’,‘‘淋しさ’’,‘‘静寂’’,‘‘光’’,‘‘無’’.死とは何かを骸に咲く花で表現。

モンタージュ(組み立て)

この作品は3つに分解された女性。  
頭部＝知性  
上半身＝無垢  
下半身＝美貌    を表現。





|                                                                                   |                  |                                                                                                                                                    |         |    |
|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|----|
|  | ふりがな<br>アーティスト名  | かたやま りょうこ<br>片山 涼子                                                                                                                                 |         |    |
|                                                                                   | 年齢               | 36                                                                                                                                                 | 創作活動の拠点 | 大殿 |
|                                                                                   | 芸術家として<br>目指す方向性 | 山口市大殿地域での創作活動を続け、市内、県内を中心とした様々な場<br>所で発表活動を行いたい。「買ってもらえるデザイン」のものと「感動しても<br>らえるアート」なもの、両方の創作を行いながら、着る人も見る人もときめく<br>服づくりを続け、より多くの人々にこの地域に足を運んでもらいたい。 |         |    |

闇

コロナ禍で感じた恐怖、苛立ち、立ち向かいたい  
強い意志、追悼の想いを表現。  
暗闇に迷い込んだような、未来が見えずに不安  
ばかりを感じていた春から夏にかけての自身の心  
境を描いた。  
恐怖の波に吞まれそうになりながらも、積雪に耐  
え育つ橋のように立ち向かって行きたいという強い  
意思を表現した。  
喪服の帯を使用したジャケットには追悼の想いも  
込めた。  
新聞や黒い紙で出来た春の花々のヘッドピース  
は、悲しいニュースや情報に錯綜されていた脳内  
を表現している。



輝

コロナ禍を受けての変化、喜び、内側から湧き上がる  
ような情熱、決意を表現。  
柔軟に変化して行くことで、輝きに満ちたような日々へ  
と繋がって来た夏から秋にかけての自信の心境を描い  
た。  
波に吞まれぬよう流れに乗ることで、万華鏡のようにく  
るくると様々なことが舞い込んで来た。そしてその都度、  
宝を得るかのように日々が変化して来たことを表現した。  
スカートの内側から透けるピンク色は、内側から湧き  
上がるような情熱、未来への創作意欲を込めた。  
花束のようなヘッドピースは、過去の出逢いへの「あり  
がとう」や未来の出逢いへの「よろしく」の想いを表現し  
ている。



|                                                                                   |                  |                                            |         |    |
|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------|--------------------------------------------|---------|----|
|  | ふりがな<br>アーティスト名  | さ さ き の り こ<br>佐々木 範子                      |         |    |
|                                                                                   | 年齢               | 48                                         | 創作活動の拠点 | 吉敷 |
|                                                                                   | 芸術家として<br>目指す方向性 | 市内で創作活動を続け、クオリティを高めたい。チャンスがあれば市外での発表も行いたい。 |         |    |



果ての実

キャンバスに水彩。  
徳佐のりんごを描きました。  
休みなく、ていねいな手入れは  
行きとどいて、その末に実った  
果実は甘くて美しい。



陽光

キャンバスに水彩。  
徳佐のりんごを描きました。  
外出できなかった今年の前半  
を思い、殊更にまぶしく感じま  
した。



一粒

キャンバスに水彩。  
稲穂を描きました。  
今年は害虫被害が大きく多く  
の田が枯れていました。多大  
な労力が必要な稲作も続けら  
れず作る人は減るばかり。お  
米の一粒一粒がかけがえがな  
いと感じています。



|                                                                                   |                  |                                                                                                                                              |         |    |
|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|----|
|  | ふりがな<br>アーティスト名  | 谷 康弘<br><small>たに やすひろ</small>                                                                                                               |         |    |
|                                                                                   | 年齢               | 37                                                                                                                                           | 創作活動の拠点 | 小郡 |
|                                                                                   | 芸術家として<br>目指す方向性 | 現在写真展を含めたパフォーマンスの依頼が東京、札幌、新潟とお話を頂いているのでこれまでと同様に山口を制作拠点に県内外での発表、また、以前ロンドンのアートギャラリーから展示の依頼が来たこともあり欧州欧米での発表活動、写真集、刊行物の制作を中心にアーティスト活動をおこなっていきます。 |         |    |

SEASCAPE

この作品は2020年に制作を始めた作品となります。海の風景を様々な場所で、全て同じ構図で撮影しています。

現在世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルスの影響で、我々はこれまで経験したことが無い様々な影響を受けながら生活をしています。2020年という区切りに人類はターニングポイントを迎えたと言ってもいいでしょう。過去の記録をみたら100年に1度このような疫病の流行はおこり、その度に人類はそれを乗り越え生物的にも進化してきました。

僕は今、世界中で同時多発的に起きているこの出来事から影響を受け、地域、国籍、人種、性別間で普遍的なもの、海を対象にした作品の制作を始めました。別の場所で撮影した海の風景を、全て同じ様に水平線の高さを合わせ、空から雲を無くし白く飛ばしたこの作品は現実風景からのリアリティの喪失を意味し、現実から別のものに変換させたいと思っています。芸術世界ではメタフォリカルなモチーフになりやすい海、空というものをこの時代に生きる人がこの作品を見てどう感じれるかを僕はこの作品ではおこないたいと考えています。



monolith

この作品は自然崇拝[アニミズム]をテーマに山口県の瀬戸内海側、日本海側で撮影している作品です。その中でポイントとなるのが神事における磐座の存在です。僕は山口県内の沿岸部を中心にその風景を求め、これまでに防府市、宇部市、山陽小野田市、周南市、下松市、周防大島町、萩市、長門市、下関市とフィールドワークを通して現在撮影を進めている作品となります。

※全文は作品横の自己アピール資料をご覧ください。

空気の速度に歩幅を合わせる

2020年山口市菜香亭にて発表した同名写真展の作品。僕自身がライフワークとして撮影している作品であり、菜香亭の展覧会では美祢市で撮影した写真だけで構成し展示しました。今回応募する作品は同シリーズの未発表作品になります。

2014年9月27日に噴火した御嶽山を期に自然への関心が高まり、秋吉台を中心に撮影を開始。その後現在まで撮影を続けており、普段生活している中では他愛も無い見過ごしている自然風景に僕は想像力を刺激されます、それは僕自身が視ているものが生物としての自然に、ある種の念を感じることが撮影に強く関係し制作の中心となっています。

森の中に入り意識を自然の動きに傾ける、風が吹き木々の葉が重なる音。風の向きで次第に変わる色、揺れる木々から差し込む光の変化。霧が立ち込める中、その動きを視ている。光の描写で形を変える空気。生きている風景。

その些細で形容し難い感覚的な時間を、この作品では表現しています。展覧会場ではサウンドパフォーマンスの開催を考慮しており、環境音が流れる空間の中で写真作品を観る、視覚と聴覚で体感する展覧会イベントをおこないたいです。



|                                                                                   |                  |                                                                                                                                                  |         |    |
|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|----|
|  | ふりがな<br>アーティスト名  | つちや ひろこ<br>土谷 寛子                                                                                                                                 |         |    |
|                                                                                   | 年齢               | 37                                                                                                                                               | 創作活動の拠点 | 平川 |
|                                                                                   | 芸術家として<br>目指す方向性 | 会社員のかたわら創作活動을続けて参りました。継続的に自分の作品を見てもらう機会を増やすため、ギャラリー等への展示。ウェブサイトの制作。約10年以上続けてきた刺しゅう、イラストレーションの作品のクオリティとオリジナル性を追求し、ワークショップなども取り入れ自分の世界感を広げていきたいです。 |         |    |

花のある暮らし

オリジナルのイラストをシルクスクリーン印刷で転写した布に、鮮やかな刺しゅう糸で色付けた作品を展示。  
糸の立体感・光沢感で服を表現しています。



浮遊

オリジナルのイラストをシルクスクリーン印刷で転写した布に、鮮やかな刺しゅう糸で色付けた作品を展示。  
人がゆらゆら浮いているイラストを描いています。  
見方によっては違う絵にも見えます。

くま

オリジナルのイラストをシルクスクリーン印刷で転写した布に、鮮やかな刺しゅう糸で色付けた作品を展示。  
動物の毛並みを刺しゅう糸で表現しています。

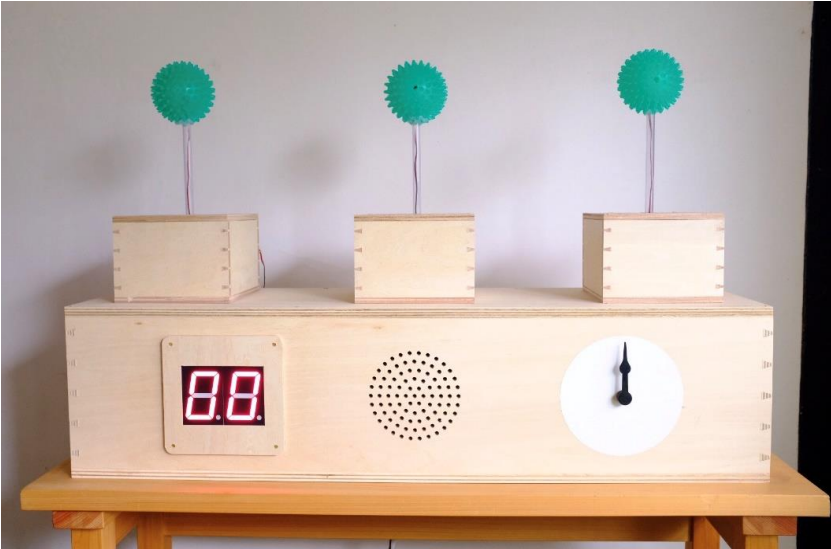




|                                                                                   |                  |                                                                                                                                                |         |    |
|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|----|
|  | ふりがな<br>アーティスト名  | はらだ かずあき<br>原田 和明                                                                                                                              |         |    |
|                                                                                   | 年齢               | 46                                                                                                                                             | 創作活動の拠点 | 秋穂 |
|                                                                                   | 芸術家として<br>目指す方向性 | 昨年、原田和明作品集『話せば短くなる』が出版されたのでその本の紹介も兼ねて、本を取り扱ってくださっている全国のお店で個展をしていきたいと考えています。コロナ禍が終息したら、海外での展示も再開したいです。2021年の夏には、山口市をテーマにした作品を山口市内で発表したいと考えています。 |         |    |

ウィルススナイパー

注射器型の光線銃でコロナウイルスを撃ちたおすインタラクティブな作品です。  
黒いボタンを押すとゲーム開始のベルが鳴り、タイマーが動き始めます。  
タイマーが一周するまでの間、光線が的に命中した回数を競います。  
命中回数はデジタル得点板に表示されます。  
機械、木工、プログラミング、電子工作等の要素を組み合わせせて制作しました。



思う壺

静かに物思いにふけりながら散策をする壺。  
スイッチを入れると、壺が左右に振れながら台の上をゆっくりと回ります。壺の中には3Dプリンタで制作した防水の一輪挿しが入っているので、花を生けることが出来、生花やドライフラワーなど生ける花によって、作品の表情や空間の色が変わります。  
壺の色は柿渋と鉄媒染で染め、台と仕組みには桜の木を使用しました。

月下独酌

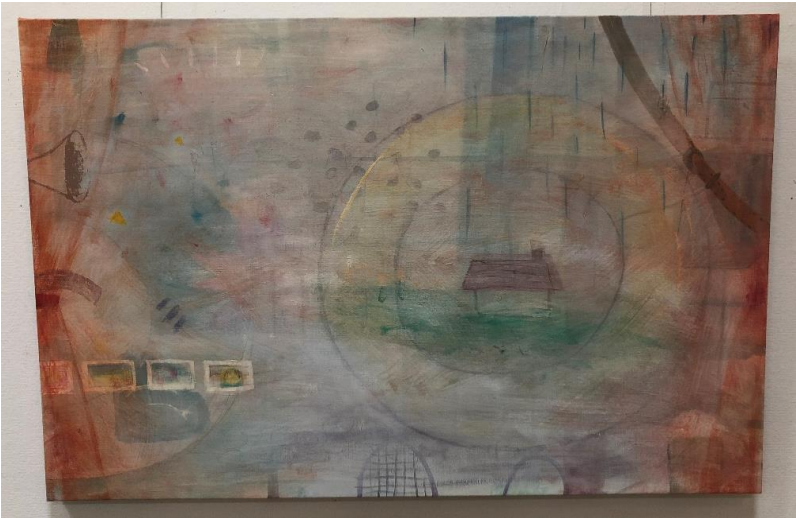
李白の有名な作品『月下独酌』をモチーフにして作りました。李白が自分の影と月を相手にお酒を楽しんでいる様子を表現しています。  
これまで素材としては主に木を使ってきましたが、この作品では、人形の着物には布を使ったり、月の部分を和紙と糊を使って張り子で作ったり、それぞれの素材の良さを一つの作品に融合させています。



|                                                                                   |                  |                                                              |         |    |
|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------|--------------------------------------------------------------|---------|----|
|  | ふりがな<br>アーティスト名  | よしだ あかり<br>吉田 朱里                                             |         |    |
|                                                                                   | 年齢               | 30                                                           | 創作活動の拠点 | 小郡 |
|                                                                                   | 芸術家として<br>目指す方向性 | 今後も東京等も視野に入れつつ、市内を中心に作品を発表し続けたい。<br>より理想とする表現を求め、これからも精進したい。 |         |    |

a stage actor

父をテーマに制作した作品。多くの趣味を持つ彼。その趣味は、スポーツから音楽まで幅広く、まるでどんな役でもこなす俳優のようだ。一見あれもこれもと定まらない様だが、全ては彼の舞台上での‘事’なのだろう。また今日、自分の時間を楽しむまでには雨の降る日もあったはず。本作品の画面上に、薄っすら見え隠れするモノや風景がいくつもあるが、これは、人間の記憶が時間の経過によって薄れていく様子で、彼が今までやってきた事を描いては薄く白色を乗せ、それを何度も繰り返し表現した。記憶は薄れていくものの、確かに個人の中に存在し、その積み重ねが「今」となるのだと強く思う。そして、「今」が「過去」へと変わる瞬間は直ぐそこまできている。



inherit



母をテーマに制作した作品。最近、祖母から受け継いだ畑で野菜や花を育てる彼女。自然を相手にするのは想像以上に大変な様だが、立派な野菜や花が食卓に並ぶ機会が多くなってきた。また、洋裁師としての彼女も魅力的で、本作品の画面全体を覆うストライプは布を表しており、それを断つハサミや針、糸、壁紙などを背景に忍ばせ、洋服が出来るまでの工程を表現した。彼女のように、いろいろな場所でたくさんの人から様々な「モノ」や「思い」を受け継ぎ、その中で身に着けた技術や知恵で‘自分らしさ’をプラスすることで、人は生きる喜びや楽しさを感じるのではないか、と、収穫した野菜や花、そして、完成させた洋服を見つめる彼女の眼を見て、そう強く思うのだ。

moving islands

海を颯爽と進む船。  
船が進んでいるように見えているだけで、実は島の方が動いていて、それに引っ張られ船が進んでいるのではないか、と想像した事から生まれた作品。  
自らの力で進むのではなく、他の力に助けられている。  
そこに気づくことができれば、さらに世界は広がるし、もっと言えば「感謝」や「協力」という言葉が出てくるはず。そんな世の中であってほしい、という思いも込めた。

